昭和興産

得意分野の周辺開拓強化

昭和興産は、成長分野にフォーカスした事業活動を進める。ポリマー添加剤など得意分野の周辺分野をターゲットに事業領域を拡大するほか、上海、香港、バンコクの拠点を活用しアジア地区でのビジネスを拡大する。「ヒトの活性化や意識改革にも力を入れていく」(沢潟一雄社長)方針で、長期ビジョンで掲げる売上高1000億円の達成へ向けた基盤固めを急ぐ。

昭和興産は合成樹脂、化学品、情報電材、産業資材など各事業を手掛ける。本社のほか、札幌、富山、福井、松本、名古屋、大阪、福岡と日本全土を網羅する営業ネットワークを確立し、地域に密着した営業活動を展開している。

08年度(12月期)上期の業績は、前年同期実績、期初予算をいずれも上回った。原材料価格高騰にともなう販売単価の上昇効果が大きかった。9月以降は減速感が強まってきており「第4・4半期はかなり厳しいとみている。年間トータルでなんとか予算をクリアしたい」という。

事業環境が不透明になるなかで「既存事業の周辺を強化するとともに成長する分野を掘り起こす」ことを重点戦略と位置づける。すでに自動車関連、太陽電池関連、機能性樹脂を対象とした3つの全社的プロジェクトが始動している。

海外事業については3拠点が軌道に乗り始めており、とりわけタイの現地法人が自動車関連ビジネスを中心に顕著な伸びを示している。引き続き3拠点でネットワークを構築しながらアジア地区でビジネスを拡大し、現状、5%程度の海外比率を近い将来10%、将来的には30%の規模に引き上げる目標を持つ。